

# 社会保障制度に関する 国民意識調査報告書

平成20年11月4日

## ◆ Contents ◆

1.調査概要	2
2-1.社会保障制度総論について	3
2-2.各制度間の満足度比較 年代別	5
2-3.各制度間の対策緊急度比較 年代別	6
2-4.社会保障制度の問題点 年代別	7
3-1.雇用・年金制度について	8
3-2.公的年金制度に対する意見 性別/年代別	9
3-3.公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点	10
4-1.医療制度について	11
4-2.医療制度に関する優先課題 性別/年代別	12
4-3.医療制度に関する問題点・改善点	13
5-1.介護制度について	14
5-2.介護保険制度に関する優先課題 性別/年代別	15
5-3.介護保険制度に関する問題点・改善点	16
6-1.少子化対策について	17
6-2.少子化対策への関心度 性別/年代別	18
6-3.少子化対策の負担のあり方 性別/年代別	19
6-4.少子化対策に関する優先課題 性別/年代別	20
6-5.少子化対策に関する問題点・改善点	21
参考:Web一対比較評価法について	22

### 報告書内の記述について

- SA■ 単一回答
- MA■ 複数回答
- FA■ 自由記述回答

分析軸のn数(回答者数)が、分析に耐え得る数を満たしていない場合(本調査ではn=50未満とします)、**SB** を表示しております。  
この箇所については、あくまでも**参考値**としてご覧ください。

# 1-1.調査概要

◆調査目的： 社会保障制度の課題、今後のあり方について国民の意識を詳細に分析する

◆調査方法： インターネットWeb定量調査

◆調査対象： 20歳以上 男女

◆エリア： 全国

◆回答者数： 2,000人（内訳は人口動態構成比に極力近似）

◆調査項目：  
・社会保障制度に対する関心度/満足度  
・満足している/緊急に取り組むべき分野  
・社会保障制度の問題点  
・各制度の給付と負担のバランスについて  
・各制度の高齢者と現役世代の負担のあり方  
・各制度における優先課題  
・各制度の問題点/改善点

◆実査時期： 2008年8月29日（金）～2008年9月1日（月）

◆調査機関： ヤフーバリューインサイト株式会社

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	147	183	154	176	304	964
女性	141	178	152	179	386	1,036
計	289	361	306	355	690	2,000

※平成19年10月1日現在 総務省 統計発表資料より性別、年代別の構成比に準じて割付

# 2-1. 社会保障制度総論について

### 関心度

関心度	割合 (%)
関心がある	48.6
まあ関心がある	40.8
あまり関心がない	7.9
関心がない	2.8

全体(n=2,000)

- 現在の社会保障制度に「関心がある」人は約半数の**49%**。「まあ関心がある」を含めると、全体の**89%**の人が**関心をもっている**。
- 性別では、「関心がある」人は女性よりも**男性の方が4ポイントほど高くなっている**が、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性**87%**、女性**91%**と女性の方が高くなっている。
- 年代別では、**年代が高くなるほど関心も高くなる傾向**。「関心がある」・「まあ関心がある」の合計でみると、20代が**78%**に対して、70代は**97%**と20ポイント近くの開きがみられ、世代間での関心度の差が顕著。

### 満足度

満足度	割合 (%)
満足している	0.3
やや不満だ	8.2
まあ満足している	26.9
不満だ	28.3
どちらともいえない	34.6
わからない	1.9

全体(n=2,000)

- 現在の社会保障制度に対して「満足」・「まあ満足」と答えた人は**8%**にとどまる。
- 「不満だ」と回答した人は**35%**で「やや不満だ」を含めると**全体の63%の人が不満を抱いている**。
- 性別では、大きな差異はみられない。
- **60代以上で「満足」・「まあ満足」と答えた人は10%~20%と他世代よりも高め**。  
一方、**30代~50代は7割近くの人が不満を抱いているという結果**。

### 給付と負担のバランス

給付と負担のバランス	割合 (%)
負担を減らす	14.7
負担の増加はやむを得ない	22.7
負担の増加はやむを得ない	42.7
大幅な負担の増加はやむを得ない	3.7
その他	8.2
わからない	8.2

全体(n=2,000)

- 「給付水準を保つために、ある程度の負担増加はやむを得ない」と考える人が**最も多く43%**。大別すると、負担増について**反対が37%、承認が46%**となっている。

### 高齢者と現役世代の負担のあり方

高齢者と現役世代の負担のあり方	割合 (%)
現役世代負担	18.3
双方の負担の増加	42.3
高齢者負担	15.1
現在のまま	9.6
その他	7.4
わからない	7.4

全体(n=2,000)

- 「**高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない**」と考える人が**最も多く42%**。

### 社会保障制度のあり方

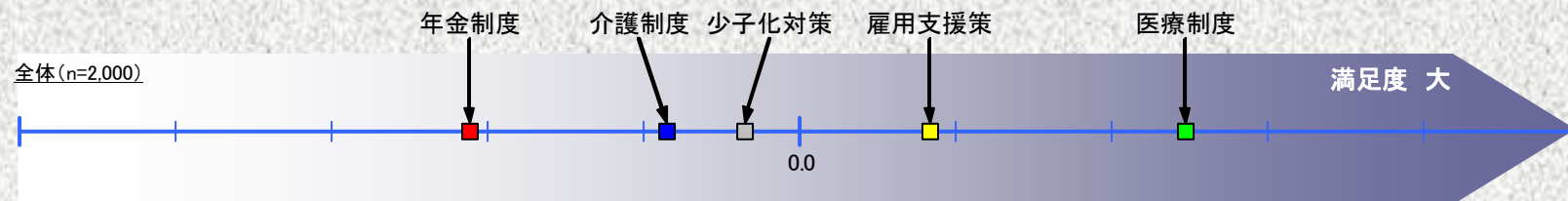
社会保障制度のあり方	割合 (%)
社会保障にはあまり期待しない	14.8
足りない部分は社会保障でみてもらいたい	63.3
なるべく社会保障に頼りたい	14.7
その他	3.1
わからない	4.2

全体(n=2,000)

- 「**基本的には自分でなんとかするが、足りない部分は社会保障でみてもらいたい**」と考える人が**最も多く63%**。  
**社会保障制度に頼りたいと考える人は、78%**で8割近くにのぼっている。

## 2-1. 社会保障制度総論について

### 各制度間の満足度比較

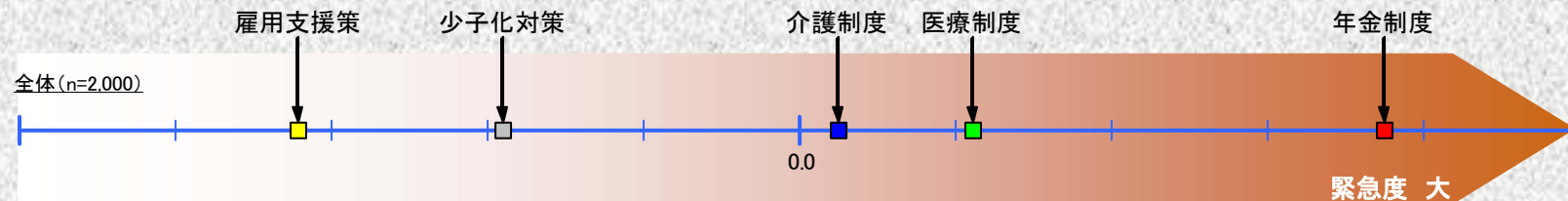


軸上の「0.0」は回答者による選択率がちょうど5割であることを意味しており、「0.0」より右側が選択率が5割より高く、左側が5割より低いということを意味している。つまり、「0.0」から右側に離れるほど、より多くの回答者がその選択肢を選んだことを表す。

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>

- 「年金制度」「医療制度」「介護制度」「雇用支援策」「少子化対策(子育て支援)」の5つの制度・支援策から2つずつランダムに提示し、“**より満足している分野**”を選択してもらい、その評価とそれぞれの距離感を確認した。
- 最も満足度が高かったのは、「**医療制度**」で、次点の「雇用支援策」を大きく引き離している。
- 続いて、「少子化対策」、「介護制度」となり、最も満足度が低かったのは、「**年金制度**」であった。

### 各制度間の対策緊急度比較



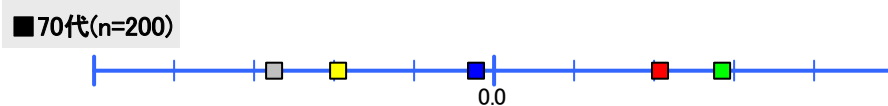
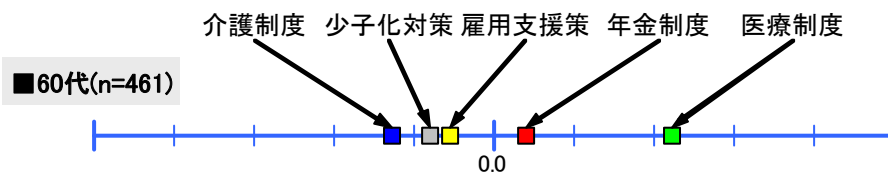
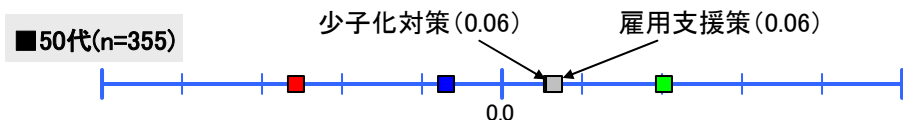
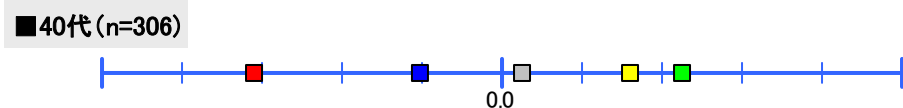
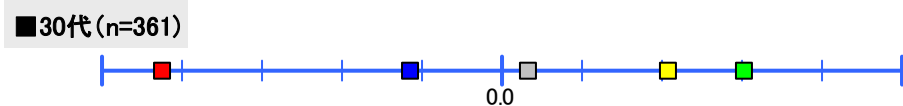
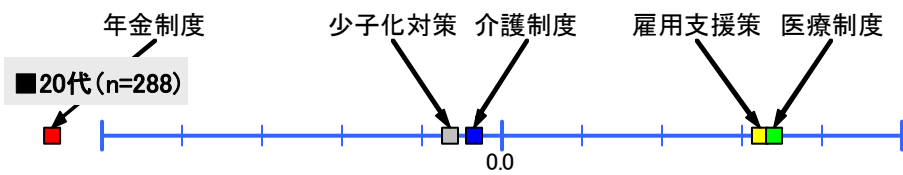
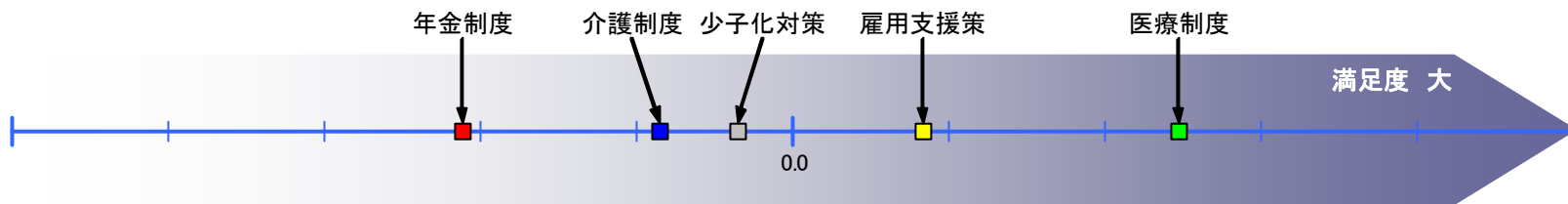
- 同様に、5つの制度・支援策の中で2つずつランダムに提示し、“**緊急に取り組むべき分野**”を選択してもらい、その評価とそれぞれの距離感を確認した。
- 上記、“満足している分野”において最下位であった「**年金制度**」が、対策を緊急に要すると考える分野としては、2番目の「医療制度」を大きく引き離しており、満足感を得られないと同時に危機感をもっている様子。
- 一方、“満足している分野”でトップとなった「医療制度」は、ここでも2番目に位置しており、ある程度満足しているものの、なお取り組むべき課題は残っているとの認識をもっている様子。

## 2-2.各制度間の満足度比較 年代別

- 年代別では、50代以下と60代以上で傾向が異なる。
- 50代以下では、「年金制度」の満足度が最も低く、年代が下がるにつれ相対的な満足度が下がるのに対し、60代以上では「年金制度」の満足度が他分野に比べて高いことが特徴的。

■満足している分野\_全体(n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>

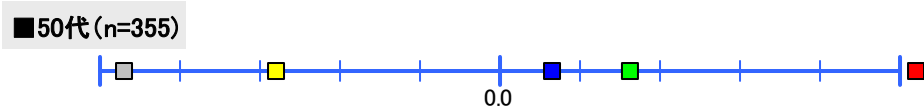
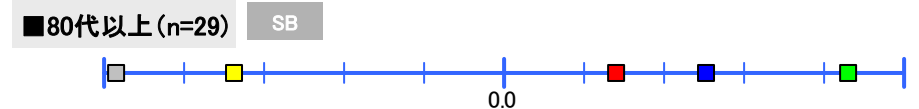
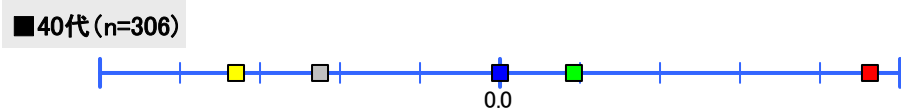
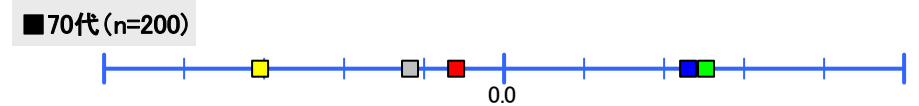
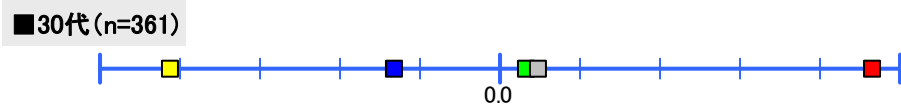
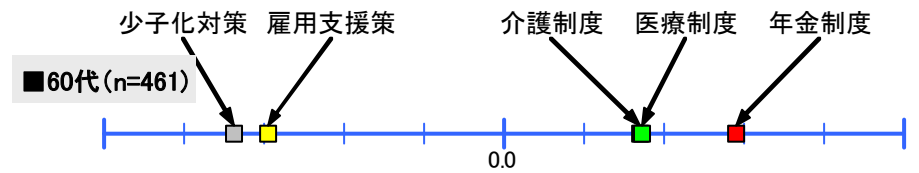
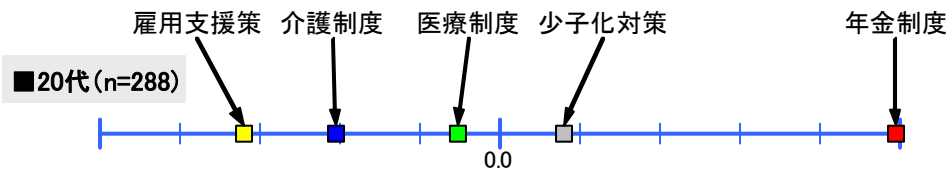
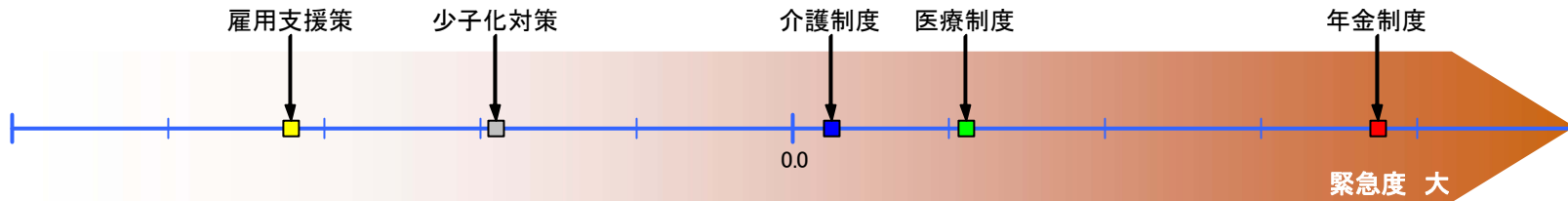


## 2-3.各制度間の対策緊急度比較 年代別

- 50代以下では、「年金制度」が緊急に取り組むべきものとして一番に挙げられている。
- 20代、30代の若年層では、「少子化対策」が「年金制度」に次いで対策が緊急に必要な分野と考えている。
- 「介護制度」「医療制度」については、年代が高くなるほど緊急に取り組むべきと考える人が多くなる。

■緊急に取り組むべき分野\_全体(n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>

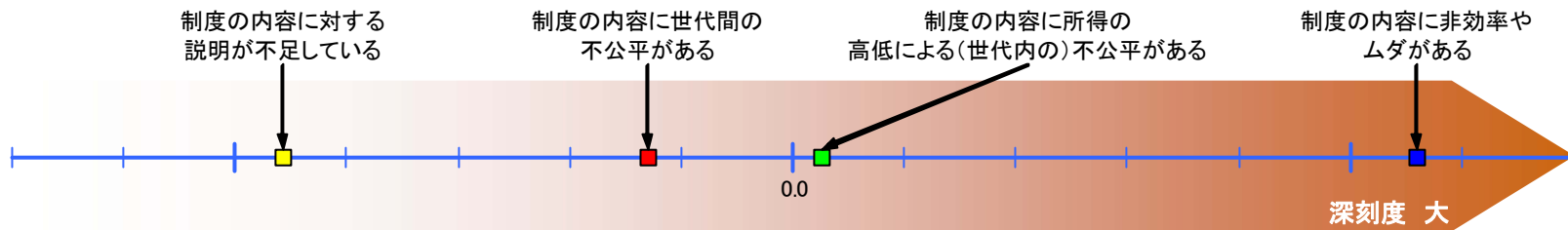


## 2-4. 社会保障制度の問題点 年代別

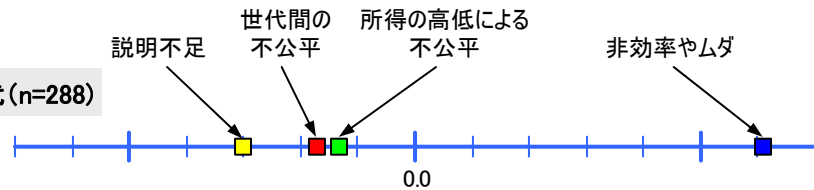
- どの年代においても「制度の内容に非効率やムダがある」と考える人が最も多く、全体と同様の順で項目が並んでいる。
- 「制度の内容に世代間の不公平がある」、「制度の内容に所得の高低による(世代内の)不公平がある」については、40代で最も深刻度が高い。

■問題が深刻である\_全体 (n=2,000)

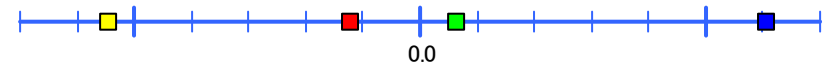
<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>



■20代 (n=288)



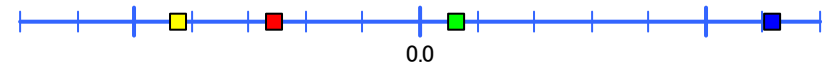
■60代 (n=461)



■30代 (n=361)



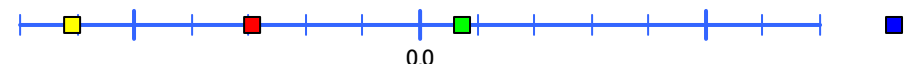
■70代 (n=200)



■40代 (n=306)



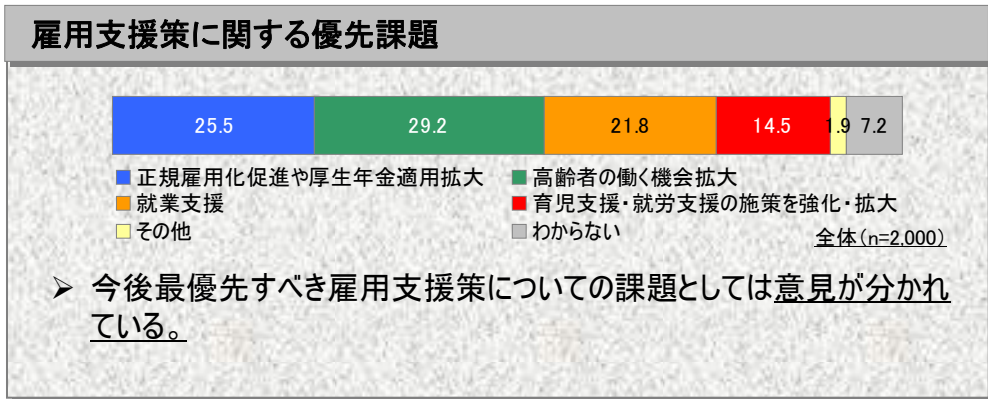
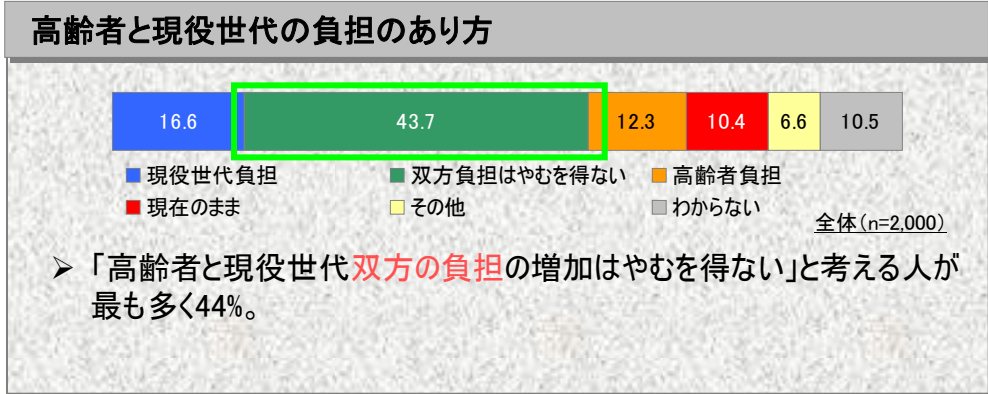
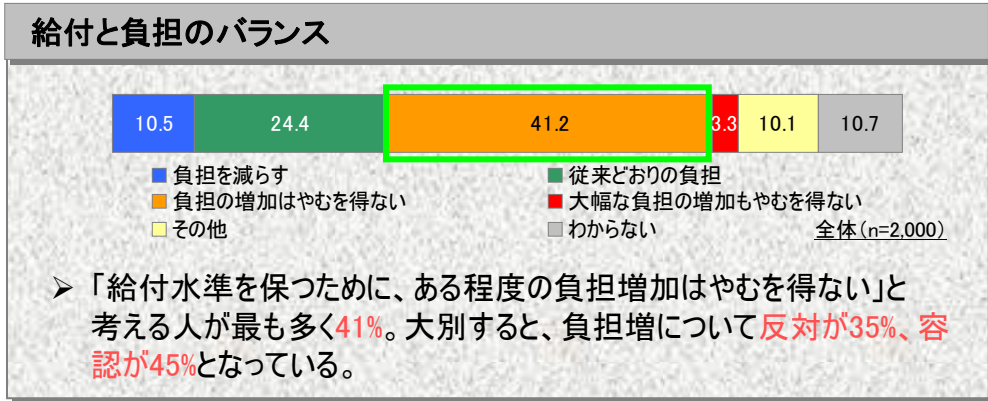
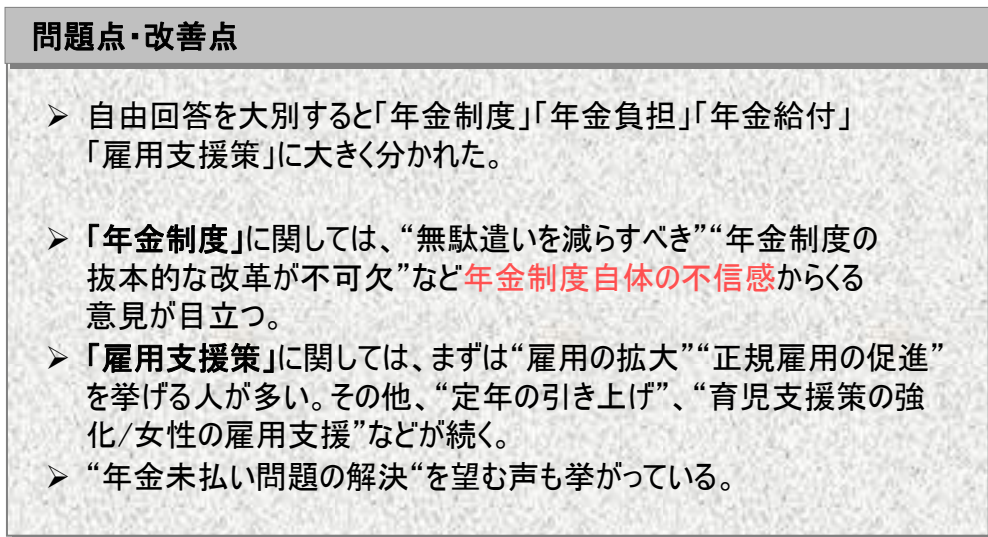
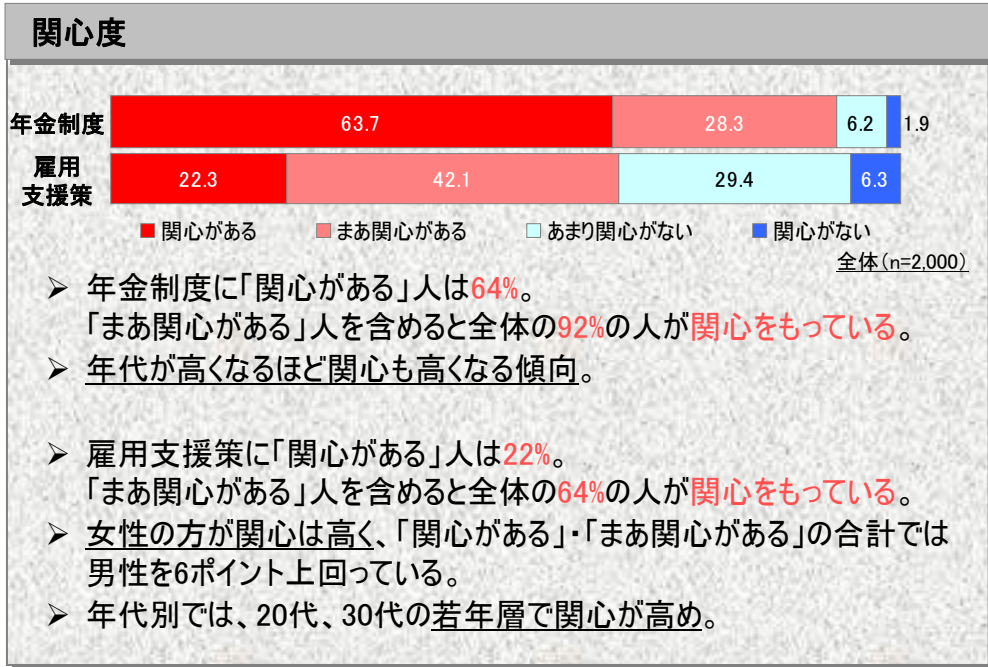
■80代以上 (n=29)



■50代 (n=355)



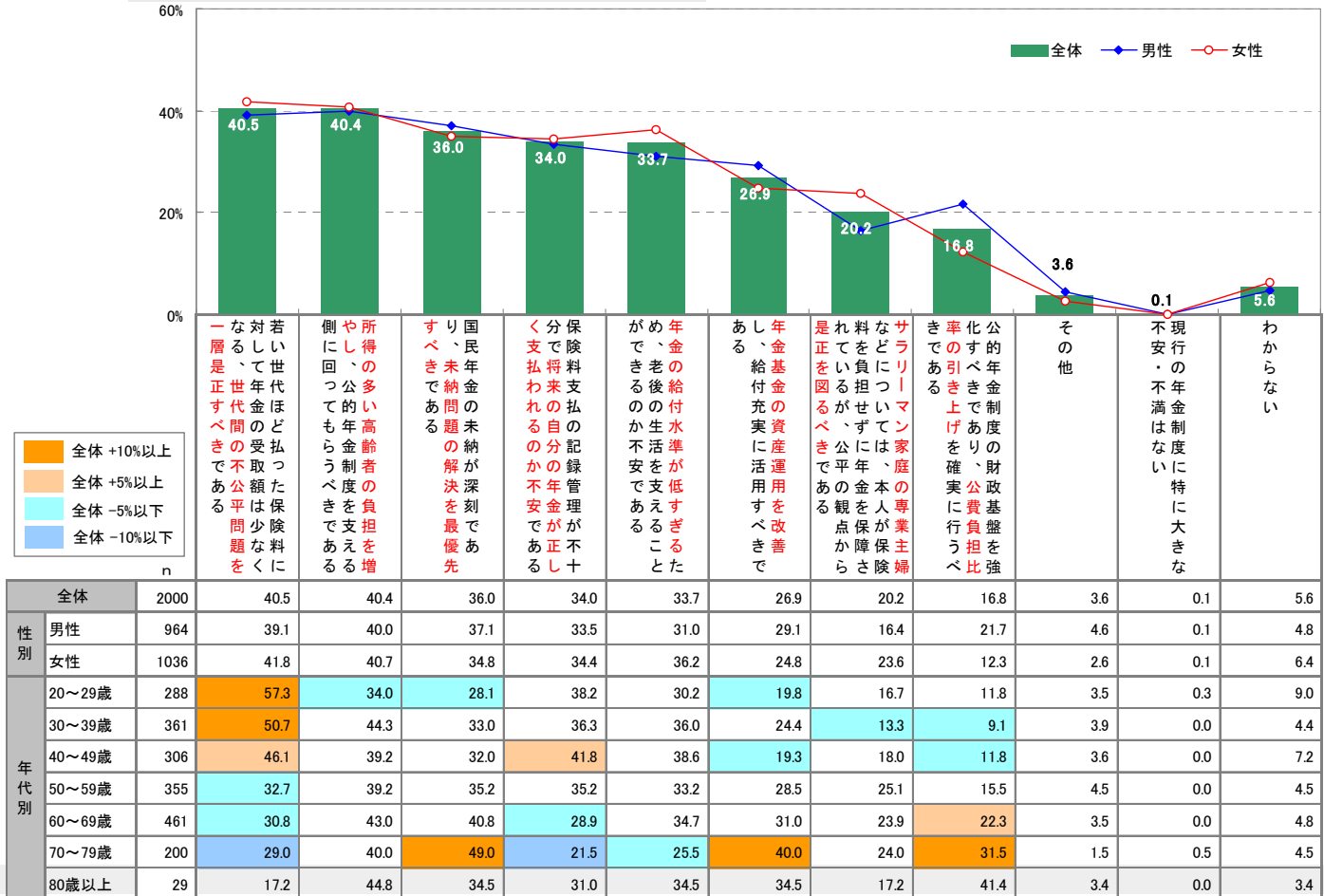
# 3-1. 雇用・年金制度について



### 3-2. 公的年金制度に対する意見 性別/年代別

- 公的年金制度に対する意見を確認したところ、「世代間の不公平問題を一層是正すべき」(41%)、「所得の多い高齢者の負担を増やす」(41%)など負担額の是正に関する項目が上位に挙がっている。その他、「未納問題の解決を最優先すべき」(36%)、「将来の自分の年金が正しく支払われるのか不安」(34%)などが続く。
- 性別でみると、女性は、「サラリーマン家庭の専業主婦の保険料負担の是正」を挙げる人が、男性よりも多く24%となっている。
- 若い世代ほど、「世代間の不公平問題を一層是正すべき」と考える人が多く、20代では、57%にのぼっており、70代と比べると30ポイント近く高い。

公的年金制度に対する意見(3つまで回答可) <性別/年代別>



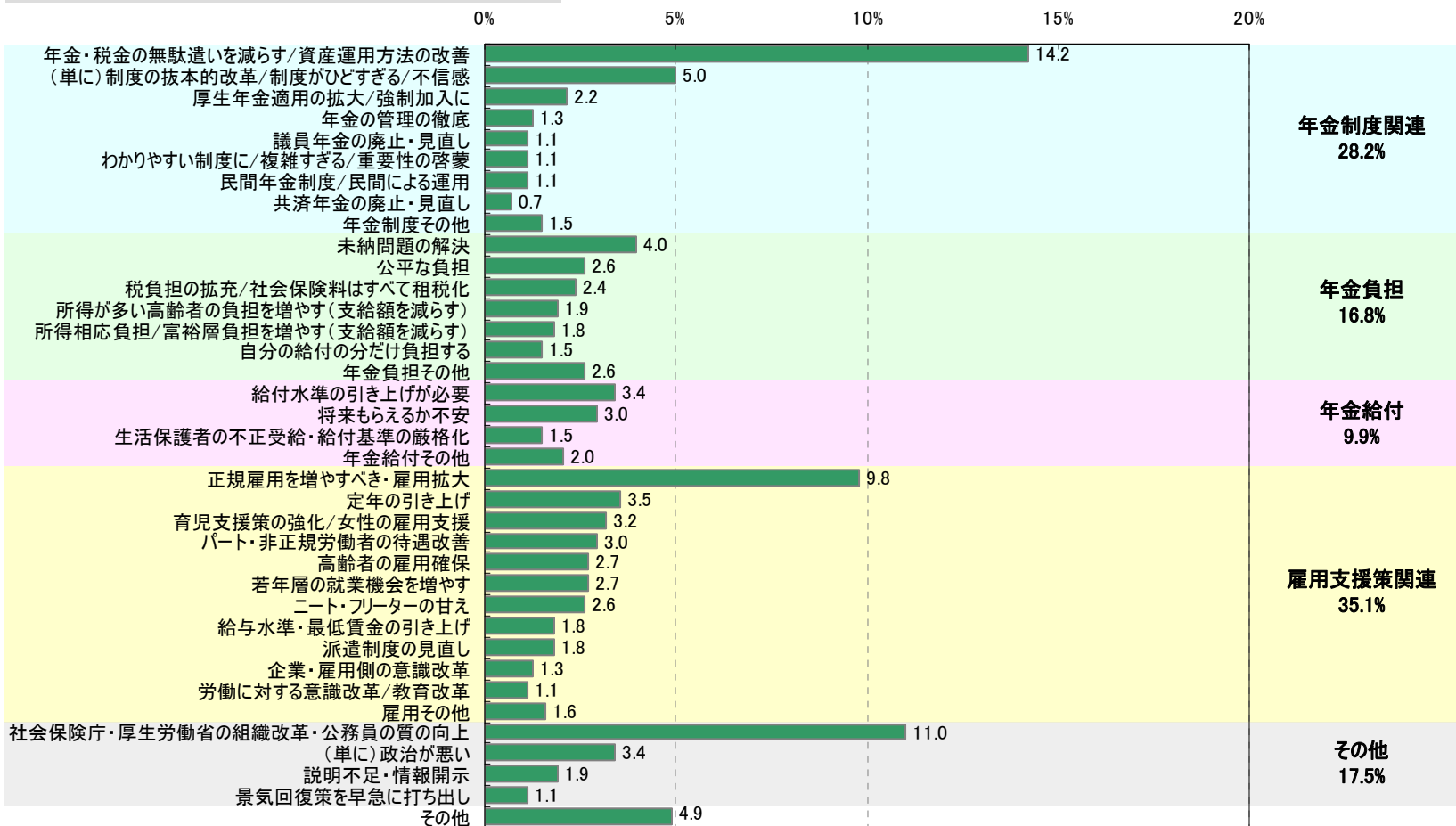
### 3-3.公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点

- 公的年金制度・雇用支援策に関する問題点・改善点について自由記述で回答を求めたところ、「雇用支援策」「年金制度」に関する記述がそれぞれ35%、28%であった。
- 「雇用支援策」では、“正規雇用化の促進”を挙げる人が多く、その他“定年の引き上げ”や“育児支援策の強化/女性の雇用支援”などの回答が多くみられる。
- 「年金制度」では、“無駄遣いや無駄な資産運用の改善”を挙げる人が最も多く、“年金制度自体への不信感”なども目立っている。

自由記述での回答  
結果を定量化

※「特になし」「わからない」を除いて集計

公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点\_(n=880)



# 4-1. 医療制度について

### 関心度

関心度	割合 (%)
関心がある	58.0
まあ関心がある	34.3
あまり関心がない	6.3
関心がない	1.4

全体 (n=2,000)

- 医療制度に「関心がある」人は**58%**。「まあ関心がある」人を含めると全体の**92%**の人が**関心をもっている**。
- 女性の方がやや関心が高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性90%、女性94%と女性の方がやや高くなっている。
- 年代別では、**年代が高くなるほど関心も高くなる傾向**。「関心がある」と回答した人は、20代が38%に対して、70代は82%と40ポイント以上の開きが見られ、世代間での医療制度への関心度の差が大きい。

### 給付と負担のバランス

負担のバランス	割合 (%)
負担を減らす	12.8
従来どおりの負担	30.2
負担の増加はやむを得ない	41.4
大幅な負担の増加はやむを得ない	1.5
その他	4.9
わからない	9.4

全体 (n=2,000)

- 「給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く**41%**。
- 負担増に関して、大別すると、**反対が43%、容認が43%**と拮抗している。

### 問題点・改善点

- 自由回答を大別すると「医師・看護師関連」「医療サービス」「制度改革」に大きく分かれた。
- 「医療サービス」に関しては、“無駄な医療”“真に必要な人が診療を受けにくい”などの他、“医療費が高すぎる”“負担が大きい”といった意見が多くみられる。
- 「医師・看護師関連」に関しては、“医師・看護師不足”を問題点として挙げる人が全体の中でも最も多く、気にしている様子。その他、“過重労働”や“待遇改善”など**現場の労働環境の改善**を求める声も多い。

### 高齢者と現役世代の負担のあり方

負担のあり方	割合 (%)
現役世代負担	16.5
双方の負担の増加	45.0
高齢者負担	15.2
現在のまま	10.4
その他	5.0
わからない	8.1

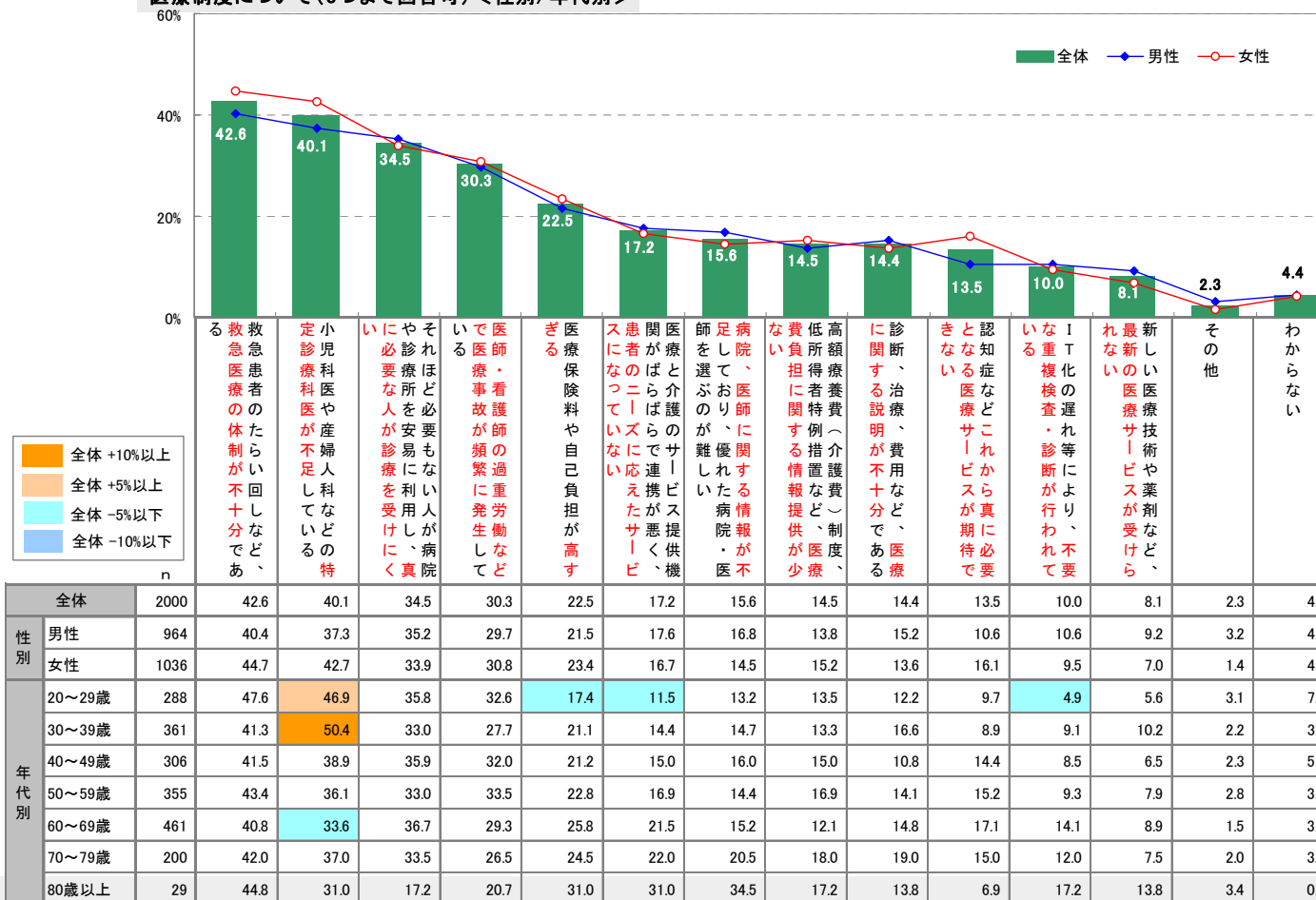
全体 (n=2,000)

- 「**高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない**」と考える人が最も多く**45%**。
- 現役世代への負担を求める人が17%、高齢者への負担を求める人が15%で**ほぼ同率**となっている。

## 4-2.医療制度に関する優先課題 性別/年代別

- 医療制度に関して優先的に対処すべき課題を確認したところ、「救急医療の体制が不十分」(43%)、「特定診療科医が不足」(40%)など緊急を要する項目が上位に挙がっている。その他、「真に必要な人が診療を受けにくい」(35%)、「医師・看護師の過重労働などで医療事故が頻繁に発生」(30%)などが続く。
- 性別でみると、女性は、緊急を要する上位2項目について高めとなっている。
- 20代、30代で「特定診療科医が不足」を挙げる人が多い。また年代が高くなるほど、「医療保険料や自己負担が高すぎる」との回答が多くなる傾向がみられる。

医療制度について(3つまで回答可) <性別/年代別>

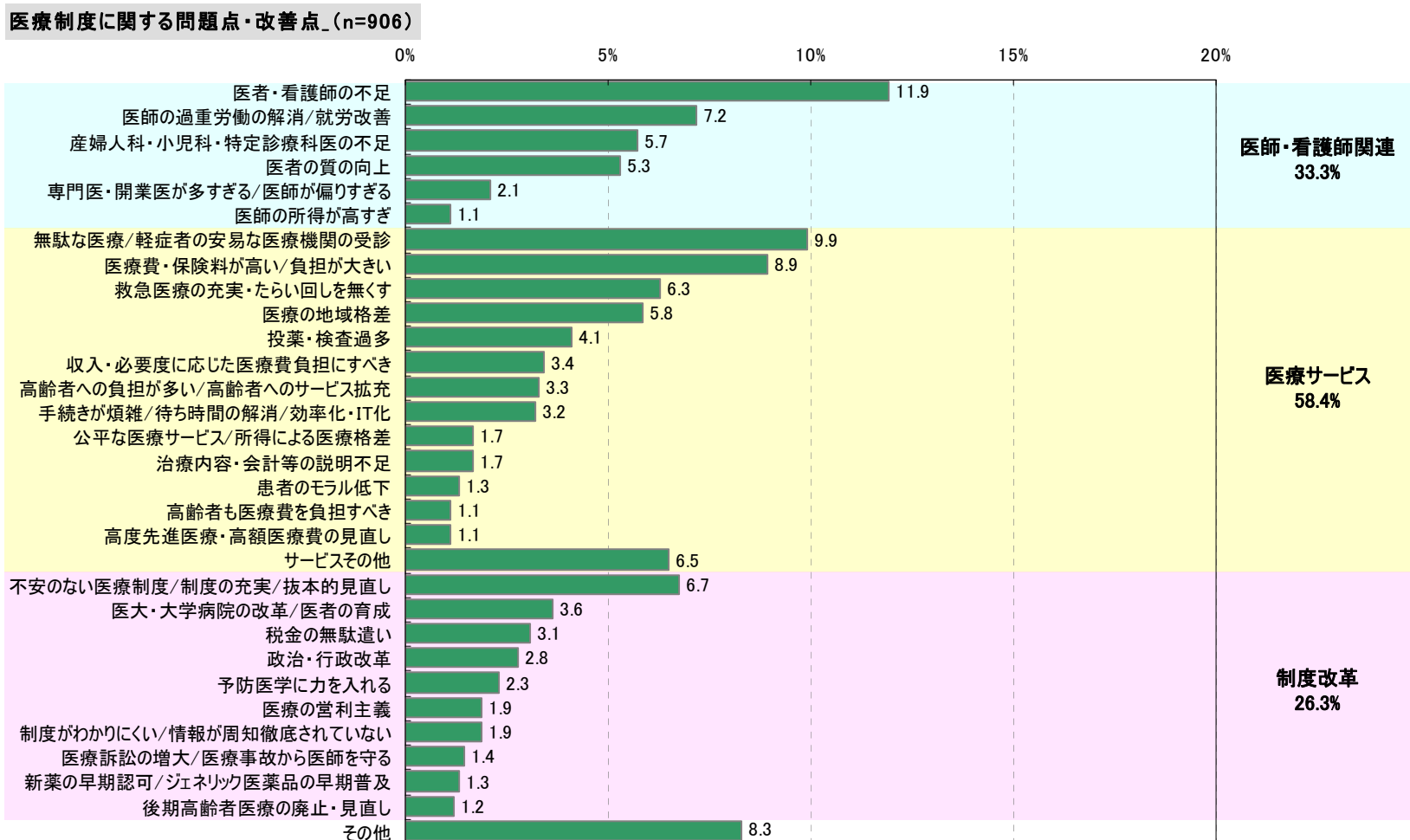


# 4-3.医療制度に関する問題点・改善点

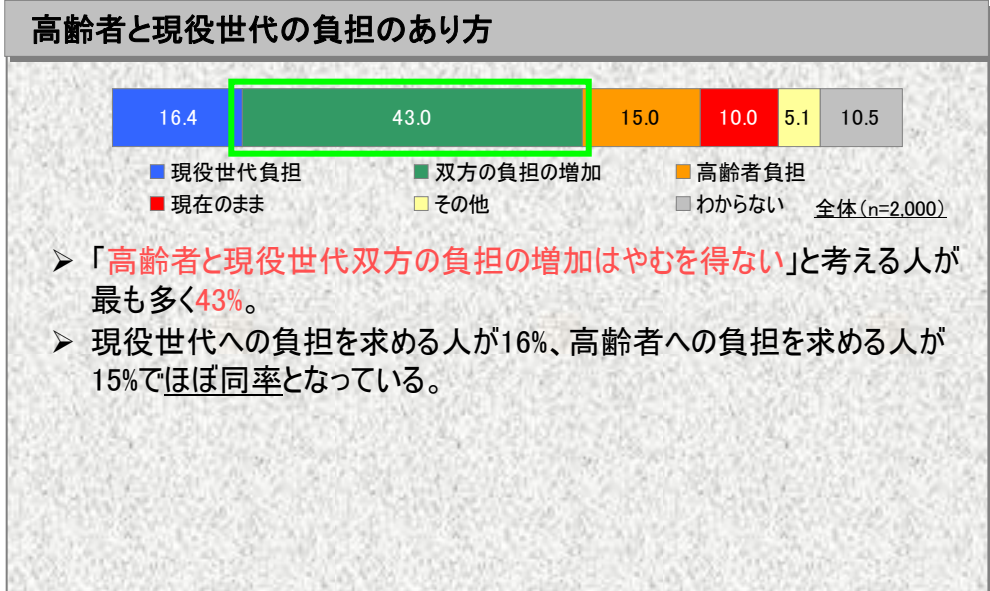
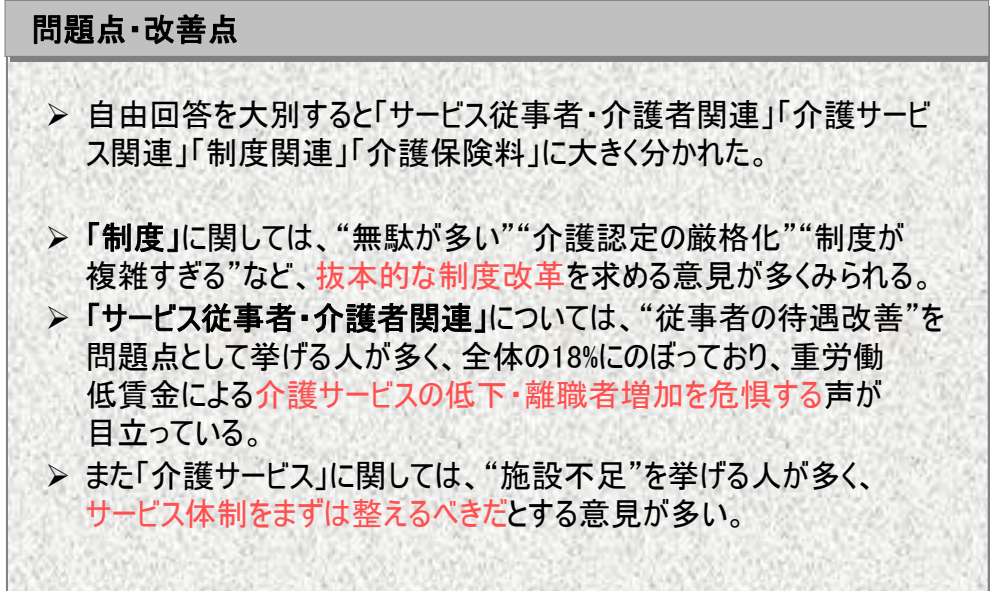
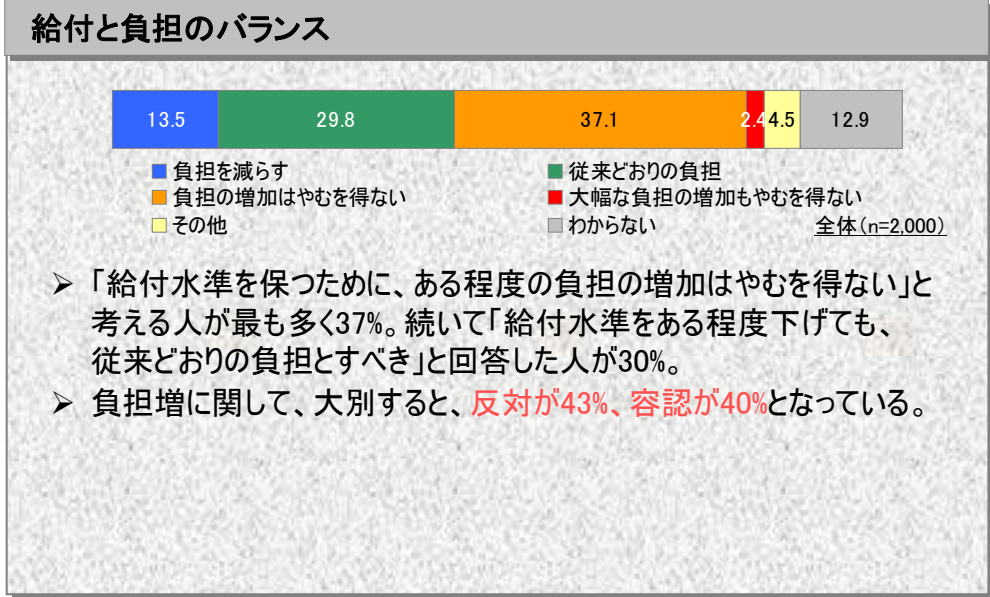
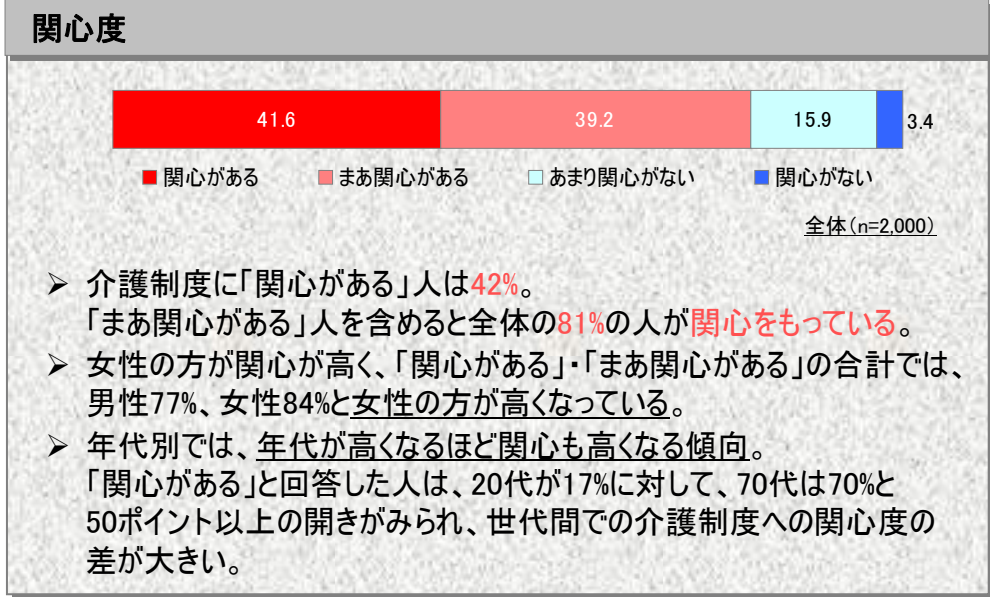
- 医療制度に関する問題点・改善点について自由記述で回答を求めたところ、「医療サービス」「医師・看護師関連」「制度改革」に大別された。
- 「医師・看護師関連」では、“医師・看護師の不足”が最も多く、“過重労働の解消”や“待遇改善”など医師の労働環境の改善を求める声も多くみられる。
- 「医療サービス」では、“無駄な医療”や“真に必要な人が診療を受けにくい”“医療費が高すぎる”“負担が大きい”などの意見が目立っている。

自由記述での回答  
結果を定量化

※「特になし」「わからない」を除いて集計



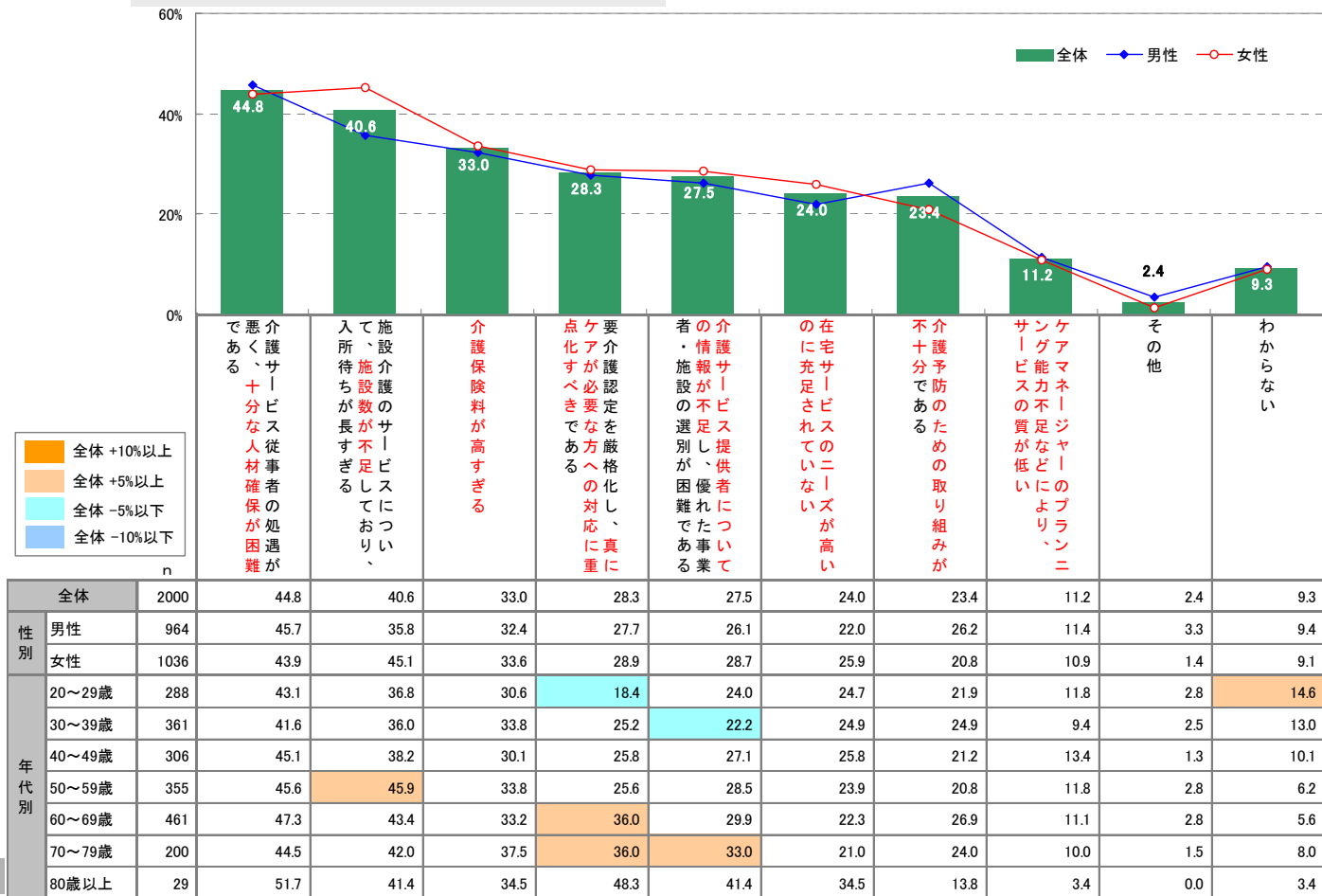
# 5-1. 介護制度について



## 5-2.介護保険制度に関する優先課題 性別/年代別

- 介護保険制度に関して優先的に対処すべき課題を確認したところ、「十分な人材確保が困難」(45%)、「施設数が不足」(41%)など介護サービスを提供する上での環境が整っていないことを挙げる人が多い。その他、「介護保険料が高すぎる」(33%)が続く。
- 性別で見ると、女性は「施設数が不足」、男性は「介護予防のための取組みが不十分」を挙げる人が比較的多い。
- 年代が高くなるほど、「真にケアが必要な方への対応に重点化すべき」を挙げる人が多くみられる。また、若年層ほど、「わからない」と回答した人が多く、やはり介護制度への関心が薄い様子。

介護保険制度について(3つまで回答可) <性別/年代別>



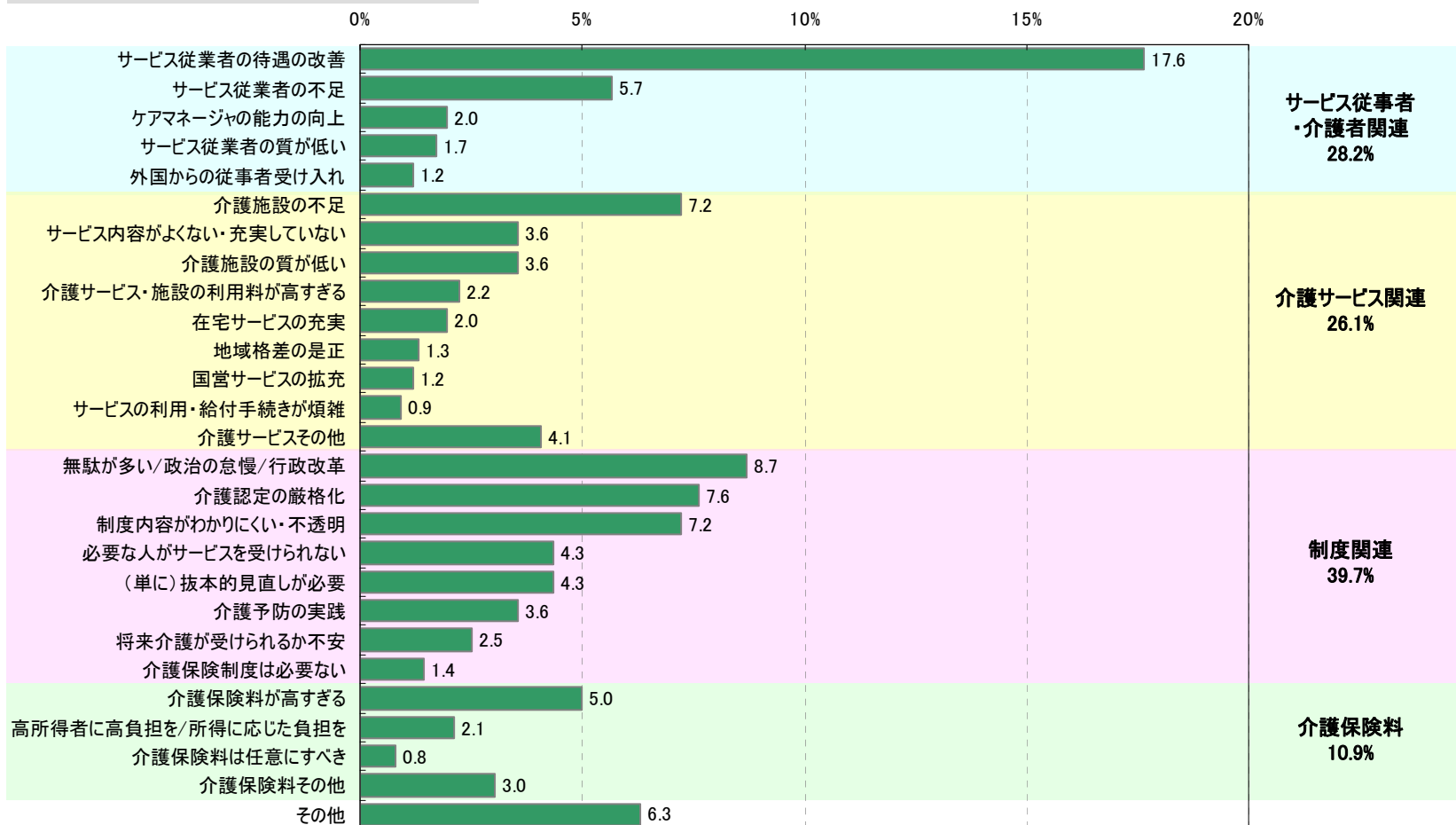
### 5-3.介護保険制度に関する問題点・改善点

- 介護制度に関する問題点・改善点について自由記述で回答を求めたところ、「制度関連」「サービス従事者・介護者関連」「介護サービス関連」などに大別された。
- 「制度関連」では、“無駄が多い/政治の怠慢/行政改革”など抜本的な改革を求める意見が多く、その他“介護認定の厳格化”“制度が複雑すぎる”なども目立っている。
- 「サービス従事者・介護者関連」では、“介護サービス従事者の待遇改善”が突出しており18%にのぼっている。

自由記述での回答  
結果を定量化

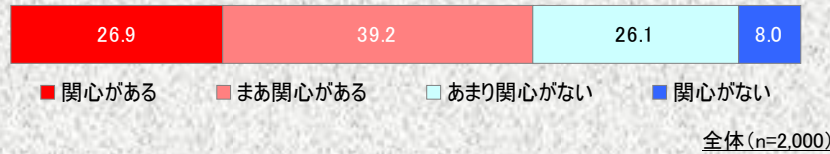
※「特になし」「わからない」を除いて集計

介護保険制度に関する問題点・改善点\_(n=760)



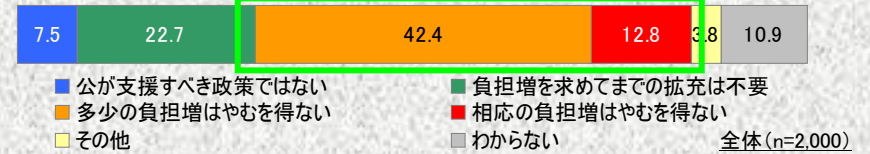
# 6-1. 少子化対策について

## 関心度



- 少子化対策に「関心がある」人は**27%**。「まあ関心がある」人を含めると全体の**66%**の人が**関心をもっている**。
- 女性の方がやや関心が高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性64%、女性68%と女性の方が高くなっている。
- 年代別では、20代、30代の若年層で関心が高め。一方、40代、50代は他世代よりも少子化対策に対する関心は低くなっている。

## 少子化対策(子育て支援)の負担のあり方



- 「拡充を図るべきであり、そのために多少の負担増となることについてはやむを得ない」と考える人が最も多く**42%**。
- 少子化対策のための**負担増について、容認する人が過半数を超え55%**となっており、反対する人を25ポイント上回っている。

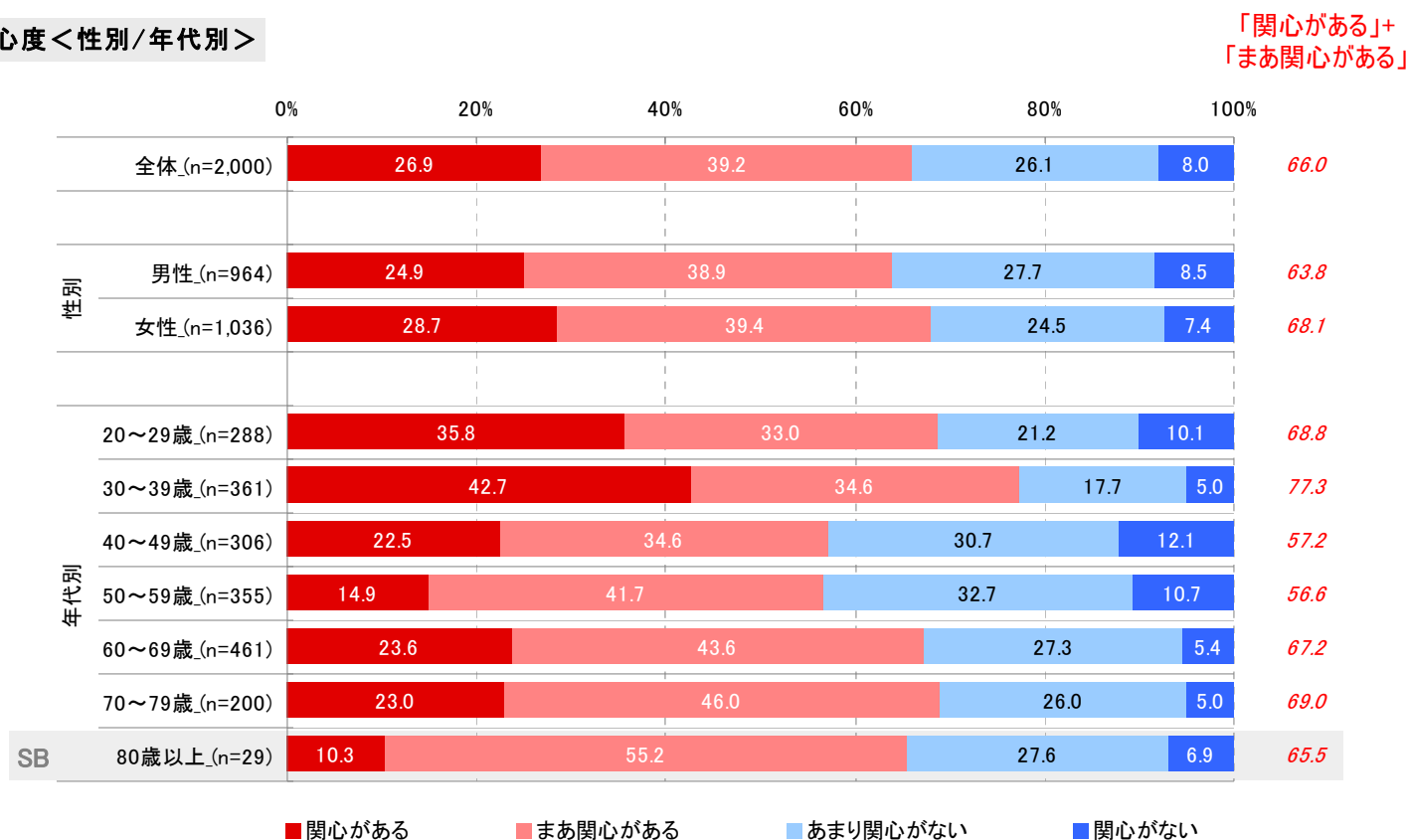
## 問題点・改善点

- 自由回答を大別すると「仕事との両立」「支援の拡充」「社会・意識の改革」「対策不要」に大きく分かれた。
- 「支援の拡充」に関しては、“保育・託児施設”や“子育て手当”など**子育てに関するハード面・経済面での支援拡充**を求める意見が出された。
- 「社会・意識の改革」については、“社会で支える仕組み”“安心して出産・子育てができるシステム”など**国全体で意識を変えていくべき**とする声挙げられた。
- 一方で、少子化対策については、“国が関与すべきではない”“子供が増えても根本的な解決にはならない”など**少子化対策自体を否定**する意見も出された。

## 6-2.少子化対策への関心度 性別/年代別

- 少子化対策に「関心がある」と回答した人は全体の27%。「まあ関心がある」と回答した人を含めると、全体の66%の人が関心を寄せている。
- 性別で見ると、女性の方が関心が高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では68%と男性を4ポイント上回っている。
- 年代別では、20代、30代の若年層で関心が高い。特に30代では「関心がある」と回答した人は43%、「まあ関心がある」と合わせると、77%と最も高くなっている。
- 一方、40代、50代は他世代よりも少子化対策に対する関心は低くなっている。

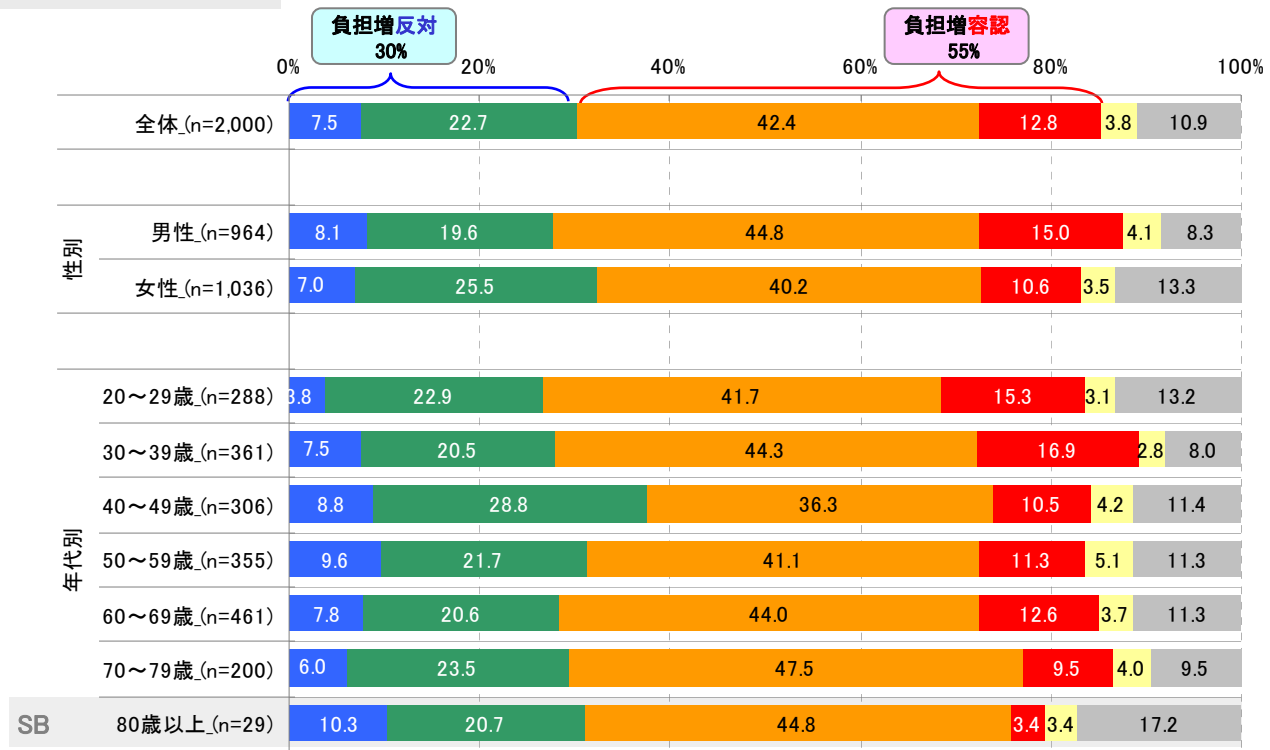
少子化対策への関心度＜性別/年代別＞



### 6-3.少子化対策の負担のあり方 性別/年代別

- 少子化対策の負担のあり方を確認したところ、■「拡充を図るべきであり、そのために多少の負担増となることについてはやむを得ない」と考える人が最も多く42%。■「国民に負担増を求めてまで、拡充する必要はない」と回答した人は23%となっている。
- 少子化対策のための負担増について**容認**する人が、過半数を超え55%となっており、**反対**する人を25ポイント上回っている。
- 性別で見ると、男性の方が容認が多く、60%の人が「やむを得ない」と認識しており、女性よりも10ポイント近く上回っている。
- 年代別では、関心の低い40代、50代は負担増に対してやや難色を示している人が多くみられる。

少子化対策の負担のあり方<性別/年代別>



負担増 反対

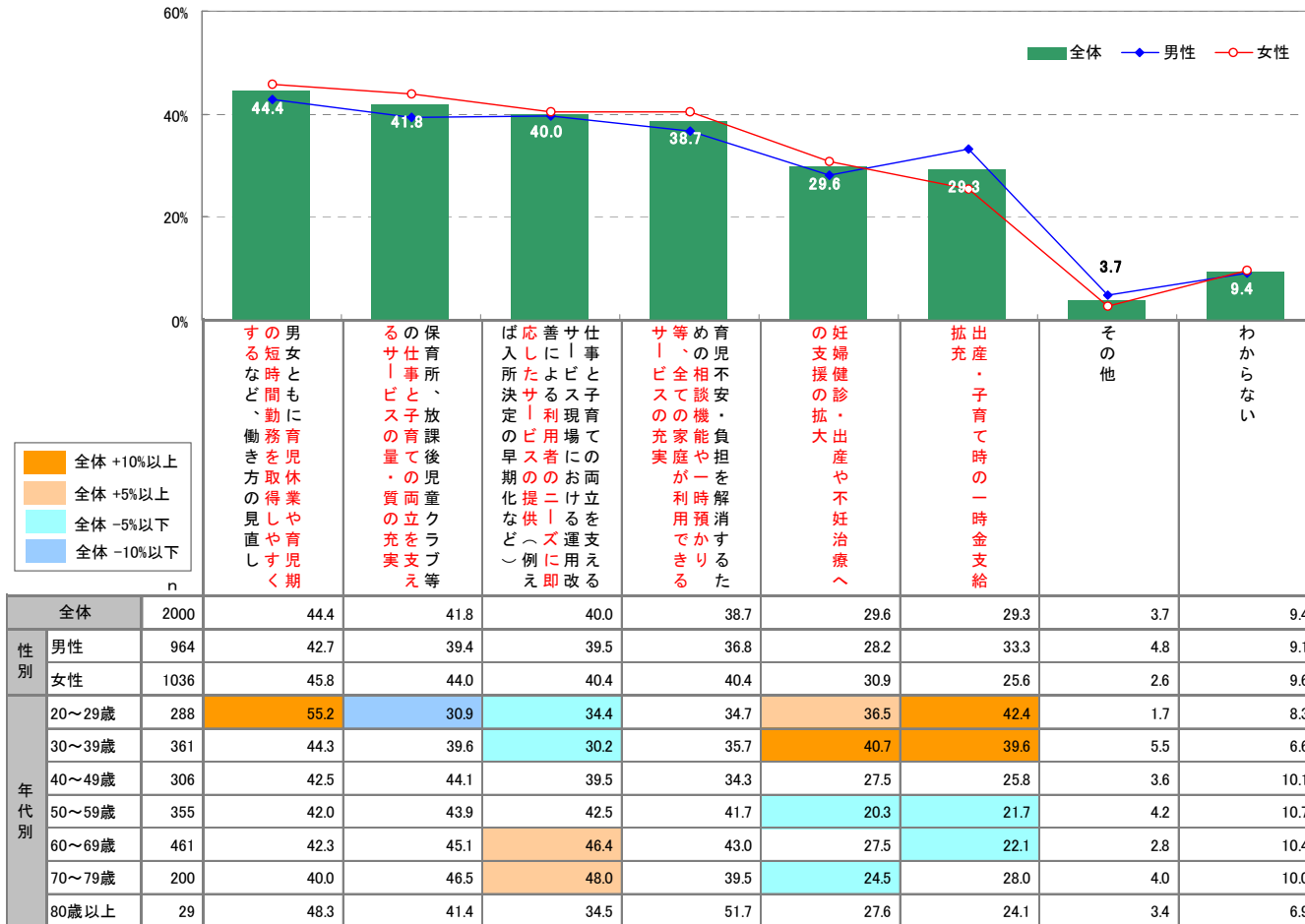
■ 少子化対策(子育て支援)は、特に公が支援すべき政策ではない  
■ 少子化対策(子育て支援)は現在の水準で十分であり、国民に負担増を求めてまで、拡充する必要はない  
■ 少子化対策(子育て支援)の拡充を図るべきであり、そのために多少の負担増となることについてはやむを得ない  
■ 少子化対策(子育て支援)を大幅に拡充すべきであり、そのために相応の負担増となることについてはやむを得ない  
■ その他    ■ わからない

負担増 容認

# 6-4.少子化対策に関する優先課題 性別/年代別

- 少子化対策(子育て支援)に関して優先的に対処すべき課題を確認したところ、「育児休業や育児期の短時間勤務を取得しやすくする」(44%)、「仕事と子育ての両立を支えるサービスの量・質の充実」(42%)、「利用者ニーズに即応したサービスの提供」(40%)が多く挙げられており、仕事と子育ての両立を支援するサービスの充実を求める人が多い様子。
- 性別で見ると、多くの分野で女性の関心の高さが伺われるが、「出産・子育て時の一時金支給拡充」を優先すべきと考える人は女性より男性が多い。
- 20代、30代では「出産・子育て時の一時金支給拡充」「妊婦健診・出産や不妊治療への支援の拡大」を支持する割合が、他世代と比べると高い。

少子化対策について(3つまで回答可) <性別/年代別>

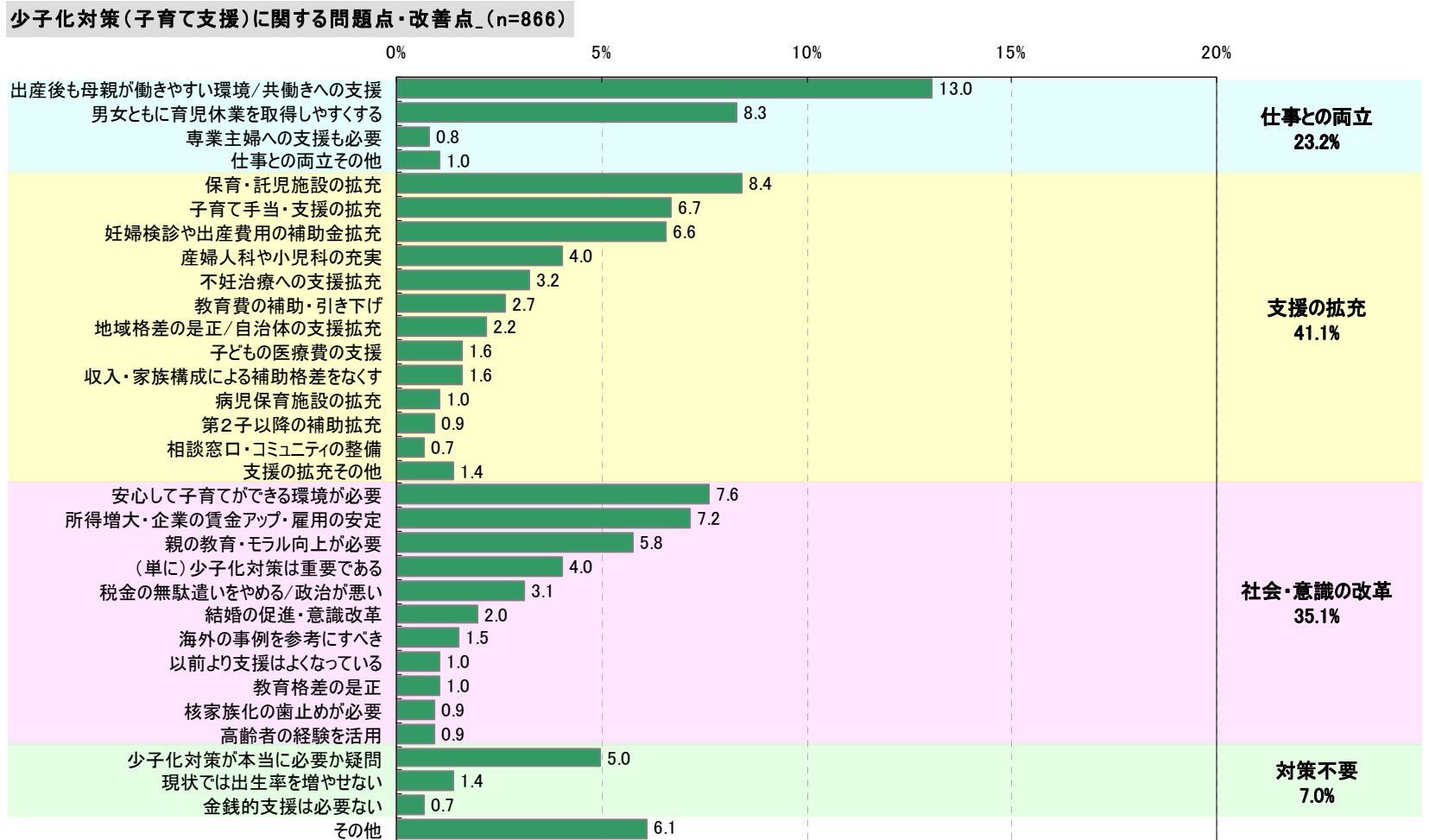


# 6-5.少子化対策に関する問題点・改善点

- 少子化対策(子育て支援)に関する問題点・改善点について自由記述で回答を求めたところ、「支援の拡充」「社会・意識の改革」「仕事との両立」などに大別された。
- 「支援の拡充」では、“保育・託児施設”や“子育て手当・支援”“補助金”など子育てに関するハード面、経済面での支援拡充を挙げる人が多くみられる。
- 「社会・意識の改革」では、“社会で支える仕組み”“安心して出産・子育てができるシステム”など国全体の意識を変えていくべきとする意見が挙がっている。

自由記述での回答  
結果を定量化

※「特になし」「わからない」を除いて集計



# 参考:Web一対比較評価法について

## ■ 従来よく行なわれている順位法と絶対評価法

### <順位法>

Q.あなたは、以下のA～Eの中で、最も関心があるのはどれですか。  
1つだけお選びください。

A	<input type="radio"/>
B	<input checked="" type="radio"/>
C	<input type="radio"/>
D	<input type="radio"/>
E	<input type="radio"/>

#### メリット

✓回答者が選択しやすい

#### デメリット

✓1つしか選択できないため、残りの選択肢に対する評価の程度がわからない

### <絶対評価法>

Q.あなたは、以下のA～Eについてどの程度関心がありますか。  
それぞれについてあなたのお考えに近いものを1つだけお答えください。

		関心がある	まあ関心がある	あまり関心がない	関心がない
A	→	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B	→	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
D	→	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
E	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

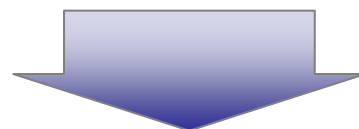
#### メリット

✓A～Eの全ての項目に対する評価の程度がわかる

#### デメリット

✓多段階評価のため、設問数や評価項目が多い場合に回答者の負担が大きくなる

✓同じ評価を受けたもの同士の差がわからない



順位法と絶対評価法の両方の課題を解決した方法が「※Web一対比較評価法」

※ 2つの対象物に対する比較評価を連続的に行なうことにより、評価の順位と程度がわかる方法。  
さらにWebを用いることにより、設問のランダム提示が可能となり、より精度の高い分析が可能となる。

# 参考:Web一対比較評価法について

## ■ Web一対比較評価法

### <画面イメージ>

Q.以下の2つの事柄について比較してお答えください。

#### <画面1>

A	B
関心があるもの	
よりこちら	よりこちら
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

#### <画面2>

B	C
関心があるもの	
よりこちら	よりこちら
<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

⋮

#### <画面10>

D	E
関心があるもの	
よりこちら	よりこちら
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

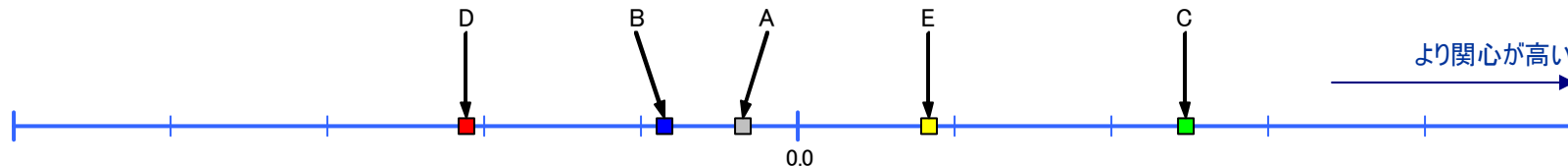
対象物を2つ抽出し、横に並べてどちらがふさわしいか(該当するか)を回答者  
に選択してもらいます。

これを全組合せについて繰り返し行ないます。  
(ここではA~Eの5つの対象物なので全組合せは10通り)

### Web一対比較評価法のメリット

- ✓対象物が2つなので、回答者にとって迷いが少なく回答しやすい
- ✓全組合せについてきめ細かく評価することが可能になり、評価の順位とその程度を一軸上で把握することが可能となる

### <アウトプットイメージ>



- 全組合せについて確認したそれぞれの対象物の選択率(ここでは「関心がある」方)をもとに、各対象物を一軸上に並べます。
- 軸上の「0.0」は、回答者による選択率がちょうど5割であることを意味しており、「0.0」より右側が選択率が5割より高く、左側が5割より低いことを意味しています。つまり、評価対象が右にあるほど、より多くの回答者を選択されている(ここでは「関心がある」)ことを表しています。
- また、対象物間の間隔が広いほど、その指標の度合いに開きがあることを表しています。